自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
・理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を併用スペースとスタッフルームに掲示、またいつでも誰もが閲覧出来るようにし、施設の一員として福祉の増進に日々取り組んでいる。	玄関の共用スペースに、理念を掲示され、ミーティングで、日々の取り組みや姿勢について話され、共有しています。「笑顔で楽しく」をモットーに日々の実践に取り組まれています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや、学校行事などに参加している。	事業所主催で「とみのくに祭り」を開催し、地域の子どもから高齢者まで多くの方が参加されています。職場体験実習の受け入れや、小学生の絵画の展示を行ったり、日々のふれあいを大切にしています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験などを通じ行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、行政にも報告を行っている。	二ヶ月に1回開催し、民生委員や地域包括の職員方等に参加していただき、ホームの取り組み等を報告しています。	定期的に開催ができるようになり、ホームの報告が行えています。今後は、家族等に参画いただき、より運営の向上に向けて取り組める活動を期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政ならびに包括支援センターと情報交換を行い、協力関係を築いている。	「とみのくに祭り」開催時に相談コーナーを設けるなど、協力関係を築かれており、行政担当者と意見交換する場を作っています。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	マニュアルの設置を行い、また玄関の施錠は基本的に行っていない。	施錠はされているが、日常的に庭などへ出られるようになっています。身体拘束の研修を行い、日々の関わりの中で自由に活動できるように配慮しています。	
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成24年度奈良県高齢者虐待防止研修会参加 職員同士が虐待について疑問に思うことは常に管理者へ報告し、防止に努めている。		

8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度の勉強会に参加し、必要に応じて成年後見制度の活用を行っている。</p>		
9	<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結以前に施設を見学して頂き、疑問点等を十分に解決した上で契約を行っている。また、解約時においては、利用者様の今後の生活等を十分に考慮し、アドバイスを行った上で、契約の解除を</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等があった場合は速やかに対処し、ご家族とも連携をとりながら解決出来るような体制をとっている。</p>	<p>毎月の利用料の支払いの訪問の際に、意見や要望が聞けるよう努めています。又、家族会を開催し、気軽に話ができる環境を作っています。</p>
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>管理者は職員と常にコミュニケーションをはかり、随時行っている。</p>	<p>管理者と職員が話しやすい環境を築かれており、日常的に意見が聞きとれるよう努めています。</p>
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>適正に職員を評価し、給与のベースアップや業務の見直しを行っている。</p>	
13		<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の力量に応じ、認知症介護実務者研修、管理者研修等を受講している。</p>	
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>不定期ではあるが、同業他社との食事会や施設訪問を行い意見交換を行っている。</p>	

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談を受けた後、本人と面談を通して行っている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談を受けた後、本人と面談を通して行っている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームの利用に限らず、総合的に見極めアドバイスを行っている。事実、グループホームへの入所相談に来られたが、現在はデイサービスを利用されている方もいらっしゃる。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の能力の不足分をお手伝いさせて頂きながら、ご本人の残存能力を十分に引き出しながら、人生の先輩から学ぶ姿勢で生活を共にする関係を築いている。</p>		
19	<p>本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>年に一度家族会を開催し、また面会時や電話、文書で近況報告を行い、日々の変化を共有し、ご家族から本人へ励ましや喜びの声かけをして頂き、職員と家族で支援している。</p>		
20	<p>8 馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族、親戚、知人等の面会が気兼ねなく出来る雰囲気作りを心がけ、自宅や知人宅への外出もご家族の理解と協力を得ながら支援している。</p>	<p>家族の訪問が多くあり、デイを利用されている友人と交流を図られたり、馴染みの関係が継続できるよう支援しています。</p>	
21	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日中はなるべくリビングで過ごして頂く事で、利用者同士が共同作業やコミュニケーションをスムーズに行えるよう支援している。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>継続的な関わりを必要とされている利用者やご家族があれば、いつでも対応できる体制をとっており、退所時にはその旨を伝えている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握した上で、施設サービス計画書を作成し、ご家族にも同意を得ている。</p>	<p>入居時に本人や家族から、意向や希望を聞かれています。日々の関わりの中から、声かけを行い、表情や行動から意向の把握に努められています。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>利用者やご家族との聞き取り調査を行い、フェイスシートの作成により行っている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>フェイスシートの内容を把握した上で、実際のケアを行うことにより把握している。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者が、利用者やご家族、職員とコミュニケーションを図り、実情に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日常の会話や気づきを、職員間で共有し、入居者のニーズに沿った、介護計画を作成しています。定期的にモニタリングを実施し、見直しを行っています。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録をもとに、特記事項については申し送りを確実にし、情報を共有している。また、心身の変化、ケアの実践に基づく結果を介護計画の見直しに反映させている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>さまざまなニーズに対応出来るよう、自社や他の事業所と連携をはかり、支援できる体制を構築している。</p>		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>特に教育機関(幼稚園、小学校、中学校)と協力し、運動会への参加、職業体験等を受け入れている。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科医による月に2回の往診、歯科医による月1回の往診の実施。以外にご家族との連携により支援を行っている。</p>	<p>提携の内科医が月2回、歯科医が月1回と定期的に往診されており、他の医療機関を受診する場合は、基本家族が付き添われています。また、救急時の対応として複数の医療機関との連携が図られています。</p>	
31		<p>看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>日常的に利用者の状態の変化について相談し、支援を行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>提携の医療機関は勿論、提携を行っていない医療機関でも医療連携室や担当医等と連携し支援している。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に『看取りの指針』について説明を行い、ご家族の意向を把握している。また、終末期の対応については、ご家族、職員が方針を共有している。</p>	<p>重要事項説明書に「看取りに関する指針」が明文化され、入居時に説明し、本人の意思、家族の意向が確認されています。24時間対応の主治医の指示のもと、過去に看取りを経験されており、終末期の対応・支援に活かされています。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルの設置を行い、また消防署の協力で講習も行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署への自動火災通報装置の設置、非常時の近隣の方々から協力していただくよう、了解済み。</p>	<p>スプリンクラー、消火器、自動火災通報装置等を完備、避難訓練と共に、避難場所・ルートの確認が行われています。非常用食料等の備蓄品は2日分確保されています。</p>	

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを大切にし、個人情報についてはスタッフルームで管理し、職員についても守秘義務等の徹底を図っている。	排泄・入浴誘導時等、さりげなく適切な声掛けが行われ、利用者個々の性格等よく理解された支援が行われています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動や表情を観察し、本人がどうしたいのかを探り、できるだけ本人に選択できる場面をつくりながら、本人が意思決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者をよく観察し、本人のニーズを引き出し、柔軟に対応できるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、本人の習慣や嗜好を考慮し、支援している。理美容については本人が望めばご家族にも支援していただきながら対応している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が出来る事を見極め、食事の準備や片付けを行っている。また、以前使用されていた食器類等を持参頂いたり、本人が使いやすい食器を使用している。また食事時のBGMなど環境に配慮し	食事は業者による調理済みの食材が納入、担当職員により加熱等され提供されています。食事の際、車いす利用の方は可能な限り、椅子に移乗し介助が行われています。	利用者個々の出来る事、出来ない事を把握され、その方の能力を生かした支援や、好みや希望等を献立に反映されるなどの取り組みに期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、必要に応じて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、口腔ケアを行っている。また歯科医とも連携をとっている。		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日々の記録から個人の排泄パターンを理解し、プライバシーに配慮しながらトイレへの声かけ、誘導を行うとともに、できるだけご自分で出来るよう支援している。また、バットの使用等は最小限におさえ、布パンツの使用など気持ちよく過ごせるよう支援している。</p>	<p>利用者個々の排泄習慣を把握し、さりげない声掛けによるトイレ誘導が行われ、便器に座っての排泄介助が行われています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄の周期を記録し、必要に応じて飲食物やマッサージ等予防し、場合によっては医師や看護師と連携をとっている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>その日の本人の心身の状態を総合的に判断し、入浴の意義を十分理解した上で支援している。</p>	<p>週2回以上の入浴を基本とされています。家庭的な浴槽を使用し、シャワーチェア・補助いす等、その方に合った介助用具を使用し、安心して入浴ができるように配慮・支援しています。</p>	<p>シャワー浴対応の方にも、湯船に浸かる喜び・リラックス感を得てもらえる為に、支援方法の工夫に期待します。</p>
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個人の生活リズムを把握し、日中の過ごし方などを検討しながら、安心して就寝できるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬のある方については、薬局からの薬の説明書にて理解しており、服薬の支援を行うとともに、状態の変化を確認し、状態によっては医師に確認をとり指示を仰ぎ、服薬の内容を調整している</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人に合った役割や、本人の嗜好などを日々のケアの中から見出し支援している。</p>		

49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日々の散歩等は勿論、ドライブや買い物、観光などを行っている。また、個人的な場所についてはご家族等の協力を得られるよう支援している。</p>	<p>自然に豊かな環境にあり、広い庭には散歩用の手すりが設置されており、気候の良い日には日常的に散歩を楽しむことができます。家族の協力を得て、外食会や買い物等、外出機会を増やす計画に取り組まれています。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には事務所で金銭の管理を行っているが、個人の能力に応じ、お金あるいは他に変わるものを管理、所持していただいている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安全を第一に考え、安心して利用いただけるよう工夫している。また季節を感じられるよう花や行事的なものも飾るようになっている。</p>	<p>ユニット1には天井高の廊下と家庭的なリビングを配置、隣接の平屋立てユニット2には明るく広いリビングが配置されています。壁には共同制作の貼り絵が飾られており、室温・湿度が快適に管理されています。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>十分な座席数を確保しており、利用者が自分の意思で座る場所を決められるようになっている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人がより安定して生活していただけるよう、ご家族等と相談しながら、家具や写真等を持ってきていただき空間の演出を行っている。</p>	<p>各居室入口には、花の名前が書かれた表札が掲げられ、間違いや混乱を招かない工夫が行われています。室内には家族写真や習字・絵が飾られており、ダンスや小さな仏壇等を持ち込まれている入居者も居られます。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すり等の設置は勿論、表示の仕方など工夫している。介助しすぎず個人の能力を引き出すアプローチの仕方を意識しながら介助を行っている。</p>		

アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない</p>
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	<p>ほぼ全ての利用者として 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない</p>
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない</p>

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
66	職員は生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族が 家族の3分の2くらいが 家族の3分の1くらいが ほとんどできていない